

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2874003326		
法人名	医療法人 恵風会		
事業所名	ケアホーム みどり		
所在地	兵庫県姫路市今宿5丁目3番8号 (電話) 079 - 293 - 6650		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 9月27日	評価確定日	平成19年11月2日

【情報提供票より】(平成19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	約25,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18 名	4 名	女性	14 名	名
要介護 1	13	要介護 2	4		
要介護 3	1	要介護 4	0		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 82.6 歳	最低 74 歳	最高	90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいふう心療クリニック、高岡病院、段歯科医院
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、兵庫県姫路市西部の国道2号線からわずかに北に入った、広さ117,500平方メートルの広大な敷地に、医療法人の施設群の一角として位置している。医療法人は精神科・高齢者医療を専門にする歴史のある法人であり、医療で培われたノウハウに基づく多数のシート類がホーム用に工夫され、一人ひとりの利用者に適した支援が行われている。ホームの運営も併設病院や老人保健施設・デイケア等の事業所とも連携が図られ、地域への活動の向上や推進に心強い体制となっている。職員体制も、常勤の看護師が勤務し、利用者の健康管理や「看取り介護」も行われ、夜間入浴も開設当初から続けられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価結果を踏まえて、今年は家族との関わりを重点的に行っている。具体的には、年に一度の家族会に加えて、年に3回の茶話会を開催し、家族と入居者はもちろんの事、職員や家族の交流も行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	アセスメントや介護計画の作成について4月から「センター方式」を導入したり、これまで聞いていなかった家族の思いや意見を伺うため、早くから日程調整を行い、ホームで一緒に話し合いながらケアを検討する取り組みが実施できている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2ヶ月に一度の運営推進会議は、自治会長や家族・入居者・包括支援センター(同法人内)・居宅介護支援(同法人内)の職員が参加し開催できている。事業所の取り組みや抱える課題について話し合い、地域との意見交換もできている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	契約書に苦情受付窓口責任者を明示し交付している。玄関には意見箱も設置し、家族会・茶話会で意見を聞ける機会も作っている。また、月々ホーム便りや預かり金報告の送付も行っている。運営への反映はないが、介護計画には反映できている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	法人での行事であるバザーに日頃の作品を出展し、地域の来訪者と交流を図ったり、介護相談を受けたりしている。また、運動会や夏祭り・秋祭りなど地域の行事にも出来るだけ参加するようにしている。日常的にも、散歩や買い物を行う中で近所の人と挨拶をしたり声を掛けてもらったりしており、更なる交流を目指している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「入居者の方々に安らぎのある生活を、それが私たちの願いです」を掲げ、入居者が落ち着いて穏やかに暮らしていけるようなケアを目指している。入居者や家族には、入居時や家族会などで説明し、理解を求める努力をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やスタッフルームに掲示し、毎朝の申し送り時には職員で唱和し、意識付けをしている。管理者と職員は、理念に基づいてミーティングを開催したり、事業所の目標を毎月設定し、その達成評価を行うことなど前向きに取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人での行事であるバザーに日頃の作品を出展し、地域の来訪者と交流を図ったり、介護相談を受けたりしている。また、運動会や夏祭り・秋祭りなど地域の行事にも出来るだけ参加するようにしている。		今後は、地域密着型サービスの事業所として地域の人との交流をさらに図ったり、ホームの機能を還元できる働きかけを模索して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をもとに事業所の取り組みを検討され、今年は家族との関わりを重点的に行っている。具体的には年に1回の家族会に加えて、年に3回の茶話会を開催し、家族と入居者はもちろんの事、職員や家族間の交流も目指している。今回の評価も日々の話し合いをもとに作成し、自己評価での気付きも得られている。		毎回の評価の受審で、サービスの見直しが行われ、理念に近づく積極的な取り組みが行われている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度の運営推進会議は、自治会長や家族・入居者・包括支援センター（同法人内）・居宅介護支援（同法人内）・職員が参加し開催している。事業所の取り組みや抱える課題について話し合い、地域との意見交換も出来ている。また、会議録は玄関にも置かれ、誰もが閲覧できる配慮がある。</p>		<p>法人外の地域の参加者が増える努力を期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホームの意見交換会に参加し、他のグループホームの職員や市の職員との意見交換や勉強会が行われている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当職員が記入した手紙やホーム便りなどを送付し、日頃の入居者の様子やホームの取り組みなどを報告している。また、面会時に直接様子を伝えたり、遠方の家族には電話での報告も行っている。預かり金については、金銭出納帳を日々記入し、月に1回家族に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に苦情受付窓口責任者を明示しており契約時説明して交付している。また、玄関に意見箱を置いたり、家族会などで気軽に相談してもらつように声を掛けたりしている。今までに苦情はないが、思いや意見を伺いケアプランに反映できている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は全員正規職員であり、新規職員は同法人内の施設などで経験を積んだ上で、当事業所に配属になっている。この1年に職員の移動はなく、入居者への影響は最小限に出来ている。</p>		<p>未経験の新規職員の配属がなく、職員の知識・経験も豊富である。</p>


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内で開催される多種の研修会に参加し、資料を回覧して伝達している。参加する職員が重ならないように一覧表で計画的な研修が受けられるよう配慮されている。また、外部研修にも参加し、経験に合わせた内容を学ぶ機会がある。		研修についての職員の希望を募るなど、積極的な研修参加への工夫も期待する。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホームの意見交換会に参加し、他のグループホームの職員との意見交換や勉強会などで交流を図るようにしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	始めの相談時より、ゆっくり、思いや希望・状況を聞くようにし、その後も1~2ヶ月に1回電話で様子を伺っている。入居が近づいてくると、本人にも来てもらい一緒にお茶を飲んだり、他の入居者と過ごしてもらったりしており、必要があれば何度か来てもらう事で関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者を一緒に生活する大切な人ととらえ、共に支え合ったり、学ばせていただいたりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の焦点アセスメントシートや心身の情報シートなどを活用し、入居時は本人や家族から生活歴や生活の状況を聞き、その人らしく暮らせるよう毎週話し合いながら、1ヶ月目に家族を招いて本人のニーズやケアプランと一緒に検討してもらっている。また、その後は入居者を中心にゆっくり希望や思いを聞くようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントにセンター方式を取り入れ、本人の思いや希望の把握や生活の確認を行いながら、その都度家族を招いて一緒に話し合っ</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2回目のプランはおよそ3ヶ月目、次は6ヶ月と実施期間を明らかにし、見直し時の家族への参加を促しながら、毎週のミーティングを重ね、見直し時は家族を含めて一緒に話し合いながら計画の追加や修正など見直しを行っている。また状態の変化時は随時見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同法人内に併設の老人保健施設や通所リハビリがあり、カラオケや詩吟・踊りなどレク活動や慰問と一緒に受ける場を持ち、地域の人や他の利用者と過ごす時間を設けたりしている。また、当事業所から老人保健施設へ入所された人の面会に行ったり、入所前に通所サービスに参加し入居者との交流を図ったりしている。軽い片麻痺のある人には希望で同法人内の外来リハビリが受けられるよう介助したりもしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続して入居前からのかかりつけ医に家族と受診してもらったり、希望によっては同法人内の医療機関に職員と受診したりして、適切な医療が受けられるよう相談しながら決めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制について、入居者や家族へ資料をもとに説明し、希望される人には看取りに関する指針についての説明をし同意を得ている。看取りについては、回復不可能な状態と定義し、徐々にADLが低下する場合は同法人内の老人保健施設や介護療養型医療施設で対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は法人内の研修に参加しており、誓約書も作成している。記録ファイルはスタッフルーム内にあり、アルバム・ホーム便りなどの掲載については家族の承認を得ている。日々のケアでは、羞恥心を大切にし排泄の介助時の声掛けには配慮し、交換は必ずトイレで行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、本人の希望を確認し、思いにできるだけ対応できるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は法人より配達してもらっていたが、徐々にホーム内で買い物や料理を行うようになり、現在は朝食と昼食は週に4日は自分達で準備や片付けを行っている。ホームで買った食材で調理する日もあり、入居者がそれぞれ出来ることを支援し、包丁で切ったり、食器を洗ったりできている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のそれぞれの希望に応じ、午後と就寝前に分けて、1~2日毎に一人ずつ入浴できおり、本人が出来ない事を支援している。		正規職員の配置で、人員の確保ができ、就寝前の入浴が実施できている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や今の入居者の希望により、縫い物・調理・片付け・洗濯干しやたたみなどを、生活の中で行い、それぞれの能力が発揮出来るよう声掛けし、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や意向を伺いながら、買い物や近所の神社や荒神・施設・喫茶店などへ外出できるよう支援している。		外出表を作成し、行き先や参加者が記入することで、偏った支援にならない工夫が見られている。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者や家族との話し合いや運営推進会議での話し合いで、施錠についての検討を重ね、現在、玄関の鍵については暗証番号にて開錠できるようにしている。		拘束という観念から、今までいろいろ検討を重ねてこられているが、さらに地域からの訪問者の受け入れや地域の一員としての入居者の在り方など検討を重ねて欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	火災についてマニュアルを作成し、職員に周知を図っている。設備的には、スプリンクラー・火災警報器・煙感知器を設置している。毎月、日勤と夜勤体制を想定した避難訓練を行い、年に1回法人全体の消防署との訓練も参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養面からのバランスの良い献立を作成し、食事を提供している。実際の摂取量は個々のファイルに記載している。体調に合わせ無理強いせず、状態を見ながら支援している。水分摂取も外出や入浴・食事等で促すようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用空間には、観葉植物が置かれ、季節の装飾が入居者と一緒に行われている。玄関には季節の花や野菜を植え、入居者と一緒世話をしている。廊下や浴室・トイレには手すりがあり、室温調節や換気が行われている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室はやや殺風景な気もするが、目の高さに表札があり、好みの暖簾などが掛けられている。入居者によっては、写真や仏壇など馴染みの物が持ち込まれ、安心できる空間への支援も行われている。		

 は、重点項目。